

腹部大動脈血行再建術の手術を受けられる患者様へ

経過	1日目・2日目	3日目 手術前日	手術当日 入室まで	手術終了 集中治療室へ	集中治療室から病棟へ	手術後5日目	手術後6日目	手術後7～10日目	手術後11日目～退院まで	
日付	月 日(月)・ 月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(木)～ 日(日)	月 日(月)	月 日(火)	月 日(水)	月 日(木)	月 日(金)～月 日(日)	
達成目標	□手術前後の経過が理解でき不安なく臨むことができる			□疼痛がコントロールされ重篤な合併症がなく経過する		□疼痛がコントロールされ日常生活行動が拡大できる		□生活上の留意点がかかり退院後の生活に不安がない		
治療・処置	治療のため中止する薬は回収します  入院2日目、手術部位の除毛をします	手術当日の内服薬確認を確認します 9時頃から麻酔科医の診察があります  夕方より麻酔科医が手術室にて、腰から麻酔のチューブを挿入します	指示された時間でお薬を内服します 手術は(:)から開始の予定です 聞き手と逆の手に点滴をします	手術室終了後より酸素を流します → 酸素が終了となります 心電図モニターを装着し観察します 手術後は様々な管が体についています	医師の診察後、病棟への移動が決定します  腰のチューブを抜きます	主治医が診察に伺います。何か聞きたいことがある時は声をかけて下さい 			手術後11日目に傷の抜糸をします 	
検査	鼻腔検査 鼻腔の検査をします	血液検査 朝6時に採血をします 		毎日採血をしたり、必要な検査を行います 				7日目に採血検査・レントゲンをとります 		
検温	決まった時間に血圧を測定します 	麻酔科処置後に入室し血圧を測定します 	手術室入室前に血圧を測定します 	細目に血圧を測定し全身状態を観察します	病棟に入室直後に血圧等を測定します 	決まった時間に血圧を測定します 				
安静度	安静度自由 	麻酔科の処置後はしばらく安静が必要です 		手術当日はベット上安静翌日の診察後より、ベットを上げ起き上がることができます	病棟に移動する際は可能であれば立つこともできます 	安静度自由・痛みの程度が落ち着きましたら、積極的に歩きましょう 		安静度自由・可能な範囲で動きましょ 		
食事	治療食 		絶食 朝から食べられません 水分摂取は(:)で終了 	医師の許可が出たら水分摂取可能となります 始めは看護師が見守ります 病状に応じて、食事が開始となります	治療食 	徐々に食事が硬くなっていきます 			治療食 	
排泄			手術室で尿をとるための管をいれます	尿の管が入ったままです 	病棟に入室後尿管を抜きます。トイレに歩くことができます ポータブルトイレを置くこともできます 	トイレでの排泄 				
清潔	除毛後に入浴します 	本日から入浴はできません		清拭で対応します 	清拭 			抜糸後、創部の問題がなければ入浴可能となります 		
ご説明や指導	医師より本人・ご家族に手術の説明があります 看護師より本人・ご家族に今後の流れを説明します 集中治療室へ入室される患者様用のパンフレットをお渡しします。ご家族の方も一緒に目を通して下さい。	必要物品の確認をします 9時に麻酔科診察があります。ご家族と一緒に診察を受けます。時間までに来院してください  手術の開始時間を説明します	貴重品などはご家族に預ける又はセーフティボックスをご利用下さい メガネ、ピアス、入れ歯、指輪等の装飾品は外します ご家族の方は病室か、談話室のどちらかで待機して下さい。必ず待機場所を看護師にお知らせ下さい	手術終了後に医師よりご家族へ説明があります 手術部位の痛みや、苦痛がある場合は遠慮なく教えて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 	積極的に動くことで傷の治りもよくなります。 傷の痛みがあり、うまく排便ができない場合は声をかけて下さい 